

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600719		
法人名	医療法人 ニコニコ診療所		
事業所名	グループホーム おさかの里(さくら館・つつじ館)		
所在地	大分県豊後大野市三重町小坂4194-9		
自己評価作成日	平成26年10月31日	評価結果市町村受理日	平成27年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎日、地域ボランティアの協力があり、御利用者とのふれ合いを大切にしている。 ・医療法人なので、医療と介護の連携が取れており、適切な医療が素早く受けられる。 ・各ユニットで統一したケアを目指してカンファを随時行い、御利用者が安心して生活出来る様、心掛けている。毎日足マッサージ機を使用しリラクゼーションの時間を作っている。 ・月一回のおやつ作りでは御利用者の残存機能を活かした取り組みにしており、御利用者・家族・ボランティア・職員共に笑顔溢れる内容にしている。 ・ふんどこ体操や口腔体操、残存能力を活かしたレクリエーションに取り組み活性化を図っている。 ・最低月1回は認知症カフェに参加し地域との交流や気分転換の機会を設けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型のグループホームとして、地域交流への外出やボランティアの訪問など、地域に根差した活動を行っている。 ・母体の医療法人と連携を取り、独自の「ふんどこ」体操や口腔ケアなどの健康管理を、利用者が楽しみながら行えるように工夫している。 ・スタッフの人材育成に努め、各種の研修会や講演会への参加を奨励し、職員は「達成目標」を設定して実践している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼にて、理念と6つのモットーを唱和し、職員室や玄関等に貼り実践出来る様、意識付けを行っている。	理念と6つのモットーは全職員で作り上げ、モットーは毎月一つを選んで設定し、その月の目標としてケアに反映させるよう意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の認知症カフェに月1回程度出かけたリ、団体ボランティア年に4~5回、個人ボランティアがほぼ毎日来られており、日常的に交流している。	地域に開かれたグループホームとして、出かける、来てもらうの双方の関係が築かれている。特にボランティアの訪問が多く、踊りや紙芝居、読み聞かせなど多彩で、利用者に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや、運営推進会議や、サロン等での講話を行い活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況の説明と共に、テーマを決め話し合い、要望や意見等を活かして、サービスの向上に努めている。	2か月に1回開かれ住民や家族の参加が多く、意見をもらっている。これまで閉めていた外壁の門扉を全開放したことで、迎いの車の乗り入れが簡単になり、寄付きがよくなったと喜ばれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導や運営推進会議などで、実情の報告や相談、疑問点など聞いて関係を築ける様に取り組んでいる。	行政の関係者とは日頃から行き来があり、予防体操のDVDを教えてもらったり、各種書式についての相談にも乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の研修会に全員参加し学んで、拘束しない事を前提に、日々のケアの中で拘束ではないかどうかを話し合い取り組んでいる。	拘束をしないケアを常に心がけ、疑問に思ったことを話し合い、お互いに意見を言える職場環境作りに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の研修会に全員参加し学んで、入浴・更衣時に、ホテイチェックを行い傷等があれば記録に残し取り組んでいる。特に言葉には注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の研修会に全員参加して学んではいるが、関係者との話し合いはされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の不安や疑問点等に対して説明を行い、その都度理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時等で家族の意見や要望等を聞く機会が多く、利用者の意見等も聞いて運営に反映させている。	家族の訪問が多くあり、個室の中を整えたり、車椅子に乗せて外を散歩させたりしてくれる。ふれあいの中で利用者に聞いたことや要望をグループホームに伝えてくれるので、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議やカンファレンス、日々のケア等で意見や提案を聞いて出来るだけ反映させているが難しいこともある。	グループ会議、ユニット会議の中で出た意見を話し合っている。ケアへの提案や、業務の流れについて見直しを行い、改善を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議等で出された要望等整備に努めているが、反映されるのに時間がかかる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修が確保されており、レベルアップの為にトレーニングの機会も検討している。必要な研修には外部の研修も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研究会や大分県小規模ネットワーク等で同業者との交流する機会があり研修にも参加して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談があった時から本人と家族との顔合わせを行い、関係作りに努めて安心出来る様に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談時より、疑問点や不安・困りごと等を聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、他職種とも話し合い、必要とする支援への対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し・たたみ・お茶葉入れ・モップ掛け・テーブル拭き・シーツ交換・ゴミ集め等、共に行い、時には人生の先輩として相談をしながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、共に食事をしたり、爪切りや髭剃り等を行い絆を深めたり、散歩やドライブ、病院受診等に家族と共に出掛けたりと関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのボランティアの方や友人が訪ねて来たり家族の協力も得ながら馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	友人や知り合いがボランティアとして訪ねてくれることがよくあり、買い物に行くためのタクシー運転手や美容師ともなじみの関係を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ちょっとしたトラブルはあるが、利用者同士が関わりを持ち支え合って楽しく暮らせるよう支援に努めている。座る席や居室もうまく行くよう本人・家族と相談しながら配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に入所されても面会に行き、本人との関係を大切にして家族への連絡を行って支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに耳を傾ける様に努め、希望に近づける様家族とも話し合っ、職員同士が意向を共有出来る様、申し送りノート等活用して検討に努めている。	センター方式のアセスメントを使って記録し、家族の意向を聞いて、思いを把握している。利用者の動作や会話からの情報は、職員で共有し、ケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録や本人・家族からの情報を職員同士が共有する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり自由な過ごし方をしており、バイタルチェックや食事量、様子観察、会話等により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見が反映される様、話し合っって介護計画を作成する様努めている。	聞き取りやカンファレンスをもとに希望を知り、実践しやすいプランを立てている。6か月に1回、評価を行い見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やチェック表、申し送りノート等に記入し、職員間で情報の共有を行っ、プランの見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他職種と話し合う機会を持ち意見を日々のケアに反映しているが、既存のサービスが中心の支援となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの協力で、四季の花や会話、料理、踊りや歌、読み聞かせ等、楽しむ事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ユニット月2回の定期での往診があり、又、いつでも受診相談が出来る様連携が取れている。本人・家族の希望する病院へ受診しており普段の様子や変化を伝える様にしている。	法人の医師が2週間に1回往診してくれる。かかりつけ医への受診は家族の同行だが、グループホームの看護師も付き添い、日頃の様子を医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な事でも身体的・精神的トラブルはNsに伝えて相談し適切な支援が受けられる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調が落ち着けば早期の退院が可能かどうか情報交換を行い、病院への訪問などして関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医とよく話し合い、事前に申し合わせ書を作成して、チームとして支援に取り組んでいる。	終末期の医療についてはグループホームでやれる内容について説明を行い、書面になっている。看取りの意向を聞き、指針も備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体研修に全員参加して、心臓マッサージやAEDの実践を行い、身につけていると共に、マニュアルを目の届く所に置いてすぐ見れる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練等行う時には、ボランティアや地域の方への声かけを行い、協力して頂ける様に努めている。	防災訓練は年に2回行い、1回は消防署の立ち会いで行う。避難した利用者に近所の人が見守り支援をしてくれる体制がある。水と食料の3日間の備蓄も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を尊重し、理念を忘れることなく、プライドやプライバシーを損なわない様な声かけ等、思いやりを持った対応に努めている。	理念に添い、尊厳を大切にした言葉かけを行って、プライバシーを大切にした対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に発言が出来、職員はそれを傾聴して出来るだけ希望がかなえられる様、又、自己決定が出来る様、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿って一人ひとりのペースを大事に支援してはいるが職員の都合が優先する事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容室に行き好みの髪形にしたり、入浴時や行事等で本人に選んでいただきおしゃれが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は手作りしているが、昼・夕は業者発注である。片付け等は時々、行って頂いている。おやつは準備し、選んで頂く事もある。又、月1回のおやつ作りを利用者と共に行い楽しんで頂いている。	朝食は手作りで昼と夜は法人の厨房で作ったものが運ばれている。職員全員がそのメニューを一緒にテーブルで食べている。月に1度の手作りおやつを利用者と楽しみながらこしらえている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量などチェックしており、ペースト、高カロリーゼリー、栄養ドリンク、刻み等、個々に合った食事形態で、出来るだけ食べて頂ける様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スポンジブラシの使用やウガイ等、個々に合った口腔ケアを行っている。義歯洗浄剤は毎日使用し口の中の汚れや臭いの防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせてトイレ誘導やパット交換を行っており、出来るだけトイレでの排泄が出来る様支援している。	排泄チェック表で適時に声かけを行い、トイレで排泄できるよう支援している。パッドの大きさの見直しなどで費用的にも負担が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や散歩の声かけと共にオリゴ糖や乳製品の飲料、水分補給、腹部マッサージ等、予防に努めているが、緩下剤の使用も多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体制上の都合で曜日を決めてはいるが希望すれば入浴できるように努めている。拒否の強い方に対しては、無理強いせず時間や日にちをずらしている。入浴剤を使って楽しめる工夫をしている。	寝たきりや嫌がる人にも週2回は入浴できるよう、声かけや入浴剤などで誘っている。拒否がある場合は、部分洗浄や清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ居室やホール、ベッドやソファなどで日中は自由に休息しており、夜間は側に居る事を伝え、安心して眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前や効能、副作用等を一覧表にしており、症状や変化を観察して何かあればNsに報告を行っている。内服確認と内服後の状態をチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や裁縫、時代劇鑑賞、籠作り、洗濯物たたみやテーブル拭き等、楽しみや役割を持つ様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内は自由に散歩する事が出来る。戸外の花の観賞やブルーベリー採りなどにも全利用者で行い、花見ドライブも実施している。又、家族の協力等で出掛ける事も出来ている。認知症カフェにも参加し楽しみにしている。	敷地内を散歩したり、近所に出かけるなど、日に一度は戸外に連れ出すことを心がけている。ドライブや買い物、旧知の人に会える月に1度のオレンジカフェへの参加などを利用者は楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族と話し合い、お金を持ちたい方は手に持たれている。代金も自分で支払われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で職員室から自由に電話をかけ話したり、かかってきた電話で自由に話したりしている。又、本人持ちの携帯電話を準備していたり、郵便物のやり取り等の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や飾り付けをして工夫をしている。昼間は自然な光を取り入れ夜もゆっくり過ごせるよう明るすぎない照明を心がけている。室温も利用者に合わせて調整し、冬は加湿器を準備し快適に過ごせるようにしている。	木で造られた天井の高い建物は圧迫感がなく、自然光や風の流れなど気持ちのよい空間となっている。季節の花や飾り付け、ウッドデッキで外気に触れることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ、デッキや玄関ポーチに椅子を置き、自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や飾り、使い慣れた物等があり、ソファや椅子等を置いて、過ごしやすく工夫している。	家で使い慣れた物を配置して居心地よくしている。自室にトイレがあっても夜間はポータブルトイレを備えておくなど、その人の体調に合わせた配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			